

大宮

THE ŌMIYA HACHIMAN

平成16年(2004)

平成16年 大宮八幡祭り(秋の大祭)(70号)

<http://www.ohmiya-hachimangu.or.jp>

主な目次

日露開戦百年に想う	2頁
御鎮座940年記念事業竣功奉告	3頁
杜の話題	5頁
今後の行事	7頁
大宮八幡祭り(秋の大祭)のご案内	9頁





今年も早いもので、色濃く緑の深い大宮八幡宮の柱にも何時しか蝉しぐれが聞かれる様になりました。去る七月二十五日の夕刻に、今や夏の風物詩ともなっています。恒例の「書画行燈」も園児、小中学生、一般の方々より二四四点の書画のご奉納を頂き、二面に張り合せた行燈一六〇基を大宮天満宮のご社頭に賑しく飾らせて頂き、点灯されると書や絵が美しく映えて、見事な献灯風景となり、天神様にも御嘉納頂いたことと存じます。

日露開戦百年に想う

宮司 鎌田紀彦

宮中で、暑い夏の日でも戦場の兵士等のことに気遣われて冬のラシヤの軍服で過ごされていたとの大御心を伺いました。日露戦争百年のことは、このところマスコミでも取り上げられ、書籍も相次いで出版され、シンポジウムや講演会も盛んに行われています。又この時イラクの復興支援と国際貢献の為に自衛隊も多国籍軍に加わり派遣されています。無事任務を遂行して帰国される様、隊員等の安全を毎朝神前でお祈りしております。この様な状況下に於て武士（ものふ）の日本精神とでも云うべき武士道が見直され盛んに論じられる様になった事は、まことに時機を得た結構なことと思っています。

なく慈しまれた宏大無辺な大御心もさること乍ら、この日露戦争では日本の武士道とロシアの騎士道がまだ生きづいていました。昨日の敵は今日の友」と有名な乃木大将の水師管見や、両国の捕虜の取扱い等戦場での美談が沢山あります。現在それ等の事柄すらも語り継がれておりません。今一度百年前を学ぶ絶好の佳き機会と思えます。日本人として国家意識を再認識して歴史と伝統に誇りを持って現下の日本の国難に対処して行きたいものでもあります。

祭典のあと、御本社の広前に於て第四回目になりますが「時間はずした日の祭事」として和太鼓とシンセサイザー、舞踏によるコラボレーションの演奏が奉納されました。

お天気に恵まれ、炎暑の中ではありませんでしたが、次第に暮れゆく夕間に涼風が吹く中、過去最多の凡そ一千名の陪観者の方々と一緒に感性豊かな太鼓とシンセサイザーの音の響き巨る演奏に合せて、大前の参道を所狭しと繰り広げられる、独創的で前衛的舞踏によるコラボレーションを一時間半に亘り楽しんで頂きました。

そうして演奏者も陪観者も鎮守の杜（自然）も、神々と一体と成っている雰囲気を感じとらせて頂き、神々と共に感応の一時を過ぎて頂きました。この感動的な素晴らしいお祭りをもっとと盛んにして行き度く思っています。

又、七月三十日には、明治神宮での明治天皇九十二年祭のご案内を頂き参列させて頂きました。ご神前で額ずいて頂きますと、ふと、今年の日露開戦百年のことが頭に浮かび、日清戦争の折火島大本営で明治大帝が燭台のロソクの明りのもと火鉢大木の冬の深夜に、戦況をお聞きになっている御姿の神宮外苑の聖徳記念絵画館の画が目に浮かんで参りました。その後の宮司様のご挨拶の中で日露戦争にあっても

当時の明治政府はもとよりのことマスコミから一般の市民に至るまで 国中が当時の日本を取り巻く国家危機に非常に敏感であり、国難として一旦開戦と国の方針が決まると、反対論者も日本国中が協力しバックアップをしたと伺っています。戦況は日本陸軍の苦戦もありましたが、我が日本海軍の連合艦隊が世界最強のバルチック艦隊を破り、日本海海戦に大勝利を収めました。当時の超大国ロシアに極東の島国弱小新興国日本が将か勝利するとは、世界の国々は予想もしなかった事でありました。そのお蔭でそれまでの不平等条約から脱却することが出来て、やっと日本が世界の列強に仲間入り出来たのであります。又当時のアジアの国々は先進列強国に植民地化されてしまったので、有色人種が白人人種に勝ったことはアジアの人達へ自信と勇氣を与え、世界的にも大きな変動をもたらしたのであります。

いつも感じるのですが、あの神輿振りのエネルギーに担ぐ人々も陪観の人々も神々と一体であることを実感して頂くことの出来る「神人合一」の境地に高められるお祭りの醍醐味であり、感動のひとときでもあり、精神的に一段とリフレッシュされ、明日への活力が湧いて来る時でもあります。又永きに亘り祈りと感謝が捧げられて来た御社とお祭りには必ず元気になる秘訣があります。

今年も大神様の広大にして無辺なるご神恩に感謝しつつ、大宮八幡祭りを賑々しく齎行させて頂き、新たなご神徳（聖なる波動）をお受けになりますよう、多くの氏子・崇敬者の皆様のご参詣をお待ち致しております。



御鎮座九四〇年記念事業の概要

【第一期事業】

- 一、神門前参道広場（大祓・遙拝祭場の整備
インターロッキング舗装工事一式
平成十五年八月一日竣功）
- 一、南参道入り口の整備
社号標（一基）燈籠（一基）
石玉垣舗設工事
平成十五年五月一日竣功

【第二期事業】

- 一、拜殿釣燈籠の新調 四基
（二基五〇万円）四基共奉納済
- 一、大宮稲荷鳥居の再建 五基
（二基五〇万円）五基共奉納済
- 一、宝物殿朱塗替工事一式
平成十五年八月三十一日竣功
- 一、北参道の整備
赤門（基礎上げ及び朱塗替え工事他）敷石改修
工事
平成十六年三月十五日竣功

一、祭典費・記念品費・事務費等諸経費
合計 五、〇〇〇万円

大宮八幡宮奉賛会
実行委員長 高橋住雄
大宮八幡宮 宮司 鎌田紀彦

御鎮座九四〇年記念事業竣功

当宮御鎮座九四〇年記念事業の有終の美を飾る御鎮座九四〇年記念事業竣功奉告祭が六月十五日斎行され、つづいて竣功祝賀会が催されました。

竣功奉告祭は事業奉賛者ら約百名の参列のもと十五日午前十時より斎行。国歌斉唱、献饌のあと宮司が祝詞を奏上、神前に事業の無事竣功をご奉告申し上げました。

つづいて竣功祝賀会を清涼殿にて開催。藤枝副実行委員長の開会の辞、神宮遥拝、敬神生活の綱領唱和につき鎌田宮司が挨拶。

「平成十四年六月に奉賛会を結成、役員総代の皆様に実行委員にご就任頂き献身的なご尽力を頂いた。その結果、不況下にも拘らず多くの氏子崇敬者から目標額を一割以上越える多額の浄財のご献納を賜り、諸整備事業も見事に素晴らしく竣功し今日を迎える事が出来た事は感激に堪えない」と御礼の言葉を述べました。

次いで高橋実行委員長が記念事業の経過報告を行い、大宮、和田、方南、松ノ木各地区の各実行委員のご努力とご尽瘁により募財目標額五千万円を一〇・四％上回る五五二〇万円の真心籠る奉賛を得たこと、記念の境内整備事業については第一期事業として南参道入口整備工事、神門前広場整備工事、第二期事業として宝物殿朱塗替工事、赤門の修復の他北参道整備工事などが無事竣功したことが、本祝賀会をもって奉賛会実行委員会を解散することなどが報告されました。

つづいて姉妹友好神社の宮城県・竹駒神社千葉博男宮司より祝辞を頂戴したあと感謝状を贈呈。高橋実行委員長他実行委員全員、竹駒神社、社号碑揮毫の綿貫民輔前衆議院議長、また高額の奉賛者四人及び五名、施工業者三社に感謝状が贈呈されました。



ついで五本木副実行委員長の発声で高らかに聖寿の萬歳を三唱。杉並明るい社会づくりの会八方俊夫会長の音頭で乾杯を行い、和やかな懇親の宴に移りました。

大宮八幡宮御鎮座九四〇年奉賛者芳名(五)

平成十六年四月一日

平成十六年七月三十一日

- 一、金参拾八万円也
- 一、西新宿デンタルクリニック・鈴木道也
（拾伍万円追加）
- 一、金六万円也
- 一、岡田道康（壹万円追加）
- 一、金伍万円也
- 一、鎌田有紀（四万円追加） 根岸辰雄
- 一、松島章夫
- 一、金参万円也
- 一、山口良子（貳万円追加）
- 一、金貳万円也
- 一、提箸照之 浅井則家
- 一、金壹万伍千円也
- 一、大宮さつきの会 宮澤徳之助
- 一、金壹万円也
- 一、鎌田喜美子 鎌田民枝 鎌田匡彦
- 一、山田久仁 榛澤志郎 梶原正巳
- 一、松島道雄 高橋清浩 荒木正義
- 一、坂本吉文 恵崎勝利 宮崎吉光
- 一、野端康世 守屋美穂 森田浩実
- 一、高松早弥香 鷹羽司藍 赤尾真麻
- 一、萩原百合子 石坂社豆佳 佐治光代
- 一、真藤愛 西田久美子 丹治千晶
- 一、牧野紗代子 千葉哲子 金春玲子
- 一、田中规予 菅野洋子 堀田俊明
- 一、佐々木正幸 宮澤初江 三好康介
- 一、山田哲男 川上和之

初宮詣芳名

平成十六年三月十三日及び
平成十六年四月一日、平成十六年七月十五日

お健やかな成長をお祈りいたします

岸本和樹 長谷川泰地 君塚翔太 高野朱加
大嶋紗也加 吉田雪乃 黒澤孝太 樋口愛美
清水大治郎 小幡彩乃 高橋紫雲 谷口寧々
小林莉緒 保谷桂貴 金原美佳 丸山晃平
平野優太 竹川碧乃 上遠野春樹 和田眞温
小林花菜子 伊藤咲希 野呂玲郁 永吉徳悦
佐藤美咲 石井駿 西谷花菜 竹地慶祐
梶原直 市橋史登 山澤秀上 草薨真衣
石塚進太郎 高石拓実 小林立暉 松田太陽
藤本猛眺 田中希紅乃 水越啓貴 安藤堅信
馬場日和子 加藤啓祐 前野珠希 木下舞
白土大樹 大川慈眼 小原舞花 松井鉄馬
柴田鈴奈 岡田雪来 鈴木健弘 鈴木春菜
平沢降一郎 牛島瑞乃 小林生旺 大熊愛英
石垣琉世 黒田理佳子 須金大皓 持永真奈
田村もも 豊田莉菜 丸山桃果 齋藤真人
大戸暢也 高澤真実 小川賢佑 中原雅
塩崎日菜 高澤花楓 菅野櫻 網谷翔太郎
柴田理己丸 岩田忠和 奥田翼 和田琉聖
小島宇宙 鈴木大渡 工藤大祐 佐藤壮
宮崎晃 高梨愛佳 大塩史起 野方孝成
佐藤優名 吉森光 伊藤菜々子 中田そら
高橋和希 内藤門夢 藤原翔月
シヤラザッ ドガウガニ・ザナ 大越小智
幡山なつき 門川奈々志 沼田風太
箕戸陽太 井本結花 阪本爽真 緒方翔
北原宏樹 野谷昌音 大橋宏紀 石橋瀬菜
松岡秀治 山村 真 真田創多 新倉快人
藤島悠 水島秀斗 高貞駿 櫻井裕基
櫻井智慈 福田逸斗 駒谷空斗 湯本倉矢
松水青澄 所紗良 塩田彩乃 三和心音

関愛奈 田中達也 後藤葵斗 成田葵
陣野十萌 木多望月 佐藤優斗 湖木陽介
宮古鈴菜 小野友一 鈴木秀生 高野舞
鈴木白々花 長谷川美月 及川俊 安藤美琴
内藤義翔 山口菜奈 今井美倫 神部夢乃
遠藤真耶 美座歩来 大竹嶺桜 吉見健太郎
小柳咲歩 鈴木剛太郎 森田彩斗 山本和希
長谷川学 井筒棧太 柳澤小次郎 竹澤咲稀
守屋大輝 佐藤智和 武田元晴 西村路世
佐藤菜乃花 柳鈴和 堂岡優斗
仲宗根羽奏奈 高田萌史 松本知歩
石川達也 山口桃花 高木祐那 松本真史
遊馬大莉 小松優太 大橋颯翔 梅原悠輝
灰原千朝 篠原はんな 岡野太軌 矢尾朱花
小山薫 竹内晴花 戸兵蕉子 戸兵碧子
山浦明愛 村上桜樹 満生日向子 白井勇輝
羽賀奏仁 松井月渚 岡野山季奈
長谷川千佳 松本大空 長田航季 京極太郎
高梨桜華 高坂颯太郎 近藤悠介 牛嶋玲哉
野中拓未 木家恭平 水嶋大智 森田陽日
森田陽向 内田彰希 村上春菜 丸山鶴輝
遠藤優花 内田野彩香 吉田航葉 九嶋篤輝
渡邊颯 岩崎美幸 鈴木 誠 中喜多亜美
田中志樹 東裏将吾 田中凜 澤俊希
佐藤奈々 田中千智 奈良彩香 稲葉琳
阿部裕也 信安浩志 藤原小桃 井上瑠衣
是木貴志 浦川奈々 本田啓仁 永宮亜衣子
早川湧人 高瀬美紀 小貫新之助 宮本朋音
石堂整人 山海真菜 木村 仁 谷川景音
江井里桜 松本力樹 木野内遥 森岡こころ
志鎌睦珠 木村和真 植田佳月 豊後遥都
徳島才音 山田純大 田中咲穂 宮野真
安達慶太 篠原龍 粕谷瑠愛 小嵐結光
齋藤慶太 玉木心悟 香掛伸政 佐藤海
篠崎快成 鈴木愛夢 杏井莉奈 長田明哲
長谷川雅美 辰巳莉理 村田萌衣 武内晴菜
長田和 小倉あかね 小島悠愛 粟田優
尾立伸伍 大野陽生 伊藤里桜 伊藤統真
杉本論哉 櫻井陽菜 田中啓太 小林孝真
杉田凌太郎 相川日菜子 小倉 耕
今中麻琴 水瀬慎之介 河西有紀 村井佑衣

安部来未 内山陸 内山界 小川七愛
前田能衣 板垣こころ 櫻山音和 杉本勇
太田陽登 高沢 小嶋渚生 兼平結衣
佐々木飛雄馬 高沢翔 鶴田悠介
高橋圭大 東桂香 三浦秀晃 佐藤恒星
山内琉大 高橋星花 上山千穂 山口さくら
松下怜奈 根岸万結 池田りら 中森輝
大久保陽菜 木村強志 金崎相太 岡東瑞紗
岡東穂剛 宮森琴音 渡辺知沙子 加藤真奈
長船海弦 高柳祥藏 丸山実友 佐藤真子
野村友香子 波多野ま悟 新井陽太郎
五明ななえ 内藤慈 小林ゆり 高山薫帆
依田龍音 二階堂雄太 大平里史 片平優吾
大江萌 桑山草 金内心眺 猪野なつき
雅名真香 上田好成 平石勇太郎 村瀬大音
田之上準人 田之上栗菜 山崎颯斗
小泉準人 小林弥月 藤原翔太 相馬彩花
五十嵐想太 林华太郎 齋藤瑞心 深瀬大貴
佐々木航 繁竹颯代 胡島瑞葵 荒井日菜子
高木健汰 清水遥佳 宮内樹花 泉咲季子
大木啓登 大木翔太 堀池菜央 高橋碧
川嶋千尋 星野友香 石村明日香 多賀谷航
小倉浩太 清水萌乃 石井大誠 坂下千裕
石川凜 林田麻希 高橋波琉 地引優希
上村宙 今乙華 安井理弦 石井るな
大内海陽 大野珠実 大島輝彦 川村航樹
郡司拓実 郡司彩海 島田優衣 鈴木うらら
堀江優栗 大矢皆海 亀田麗奈 岡谷露子
服部秀治 安川裕衣 観澤優太郎 河田遼太
手島大樹 高木麻衣 染谷賢顕 齊藤稜志
吉村輝風 八木れの 吉岡成智 三塚琉生
小杉俊介 渡辺友弘 南龍一 草野亜樹良
遠藤来未 安佑佐 高木重幸 藤本竜輝
石田佳蓮 山下天 齋藤松太 寺田昌宏
元永裕一朗 栗田祐之介 阿部万俊子
野見山若麻 谷垣明花莉 永喜若菜
伊丹良佑 土井泰貴 増羽悠月 小野彰吾
岩見鷹明 片山悠真 門脇カレン 香梨
糸数天 近藤聡美 浅野海翔 神崎雄介
小島栄桜 新町咲子 小杉壮汰 田中直樹
岡本精美 清野純 栗原瑠璃 木田もも

加藤愛悟 菅原果琳 佐藤凌雅 池田裕貴
郡山活輝 和中淳成 平澤祐衣 山崎佳穂
三橋太陽 上田彩月 中山玲 太田陽南子
金子優真 奥村碧斗
高橋ステイナリー・ダニエル 久下椋世
岡崎悠 上野舞花 竹内陽香 白鳥草枝
島名瞬 山崎大地 ノ瀬真 萬歳明輝
古川悠陽 市川智暉 市川拓弥 栗原礼佳
菊地智幸 松本達 轟森ほのか 平田誠飛
阿部春海 神尾善 高橋志麻 飯村綺乃
菊池慶 中野山梨 天野澁己 吉永かずみ
高橋山衣 松石草 青木若葉 羽田明寿穂
田中明日香 増田真凜 飯島悠太郎
尾崎萌音 青木咲楽 嶺川千陽 割谷湧
原科怜音 齋藤芽 近藤芽生 酒井果歩
風岡萌花 川村 路 関口雄太 島田奈旺
小畑優 水野愛悟 石川沈平 田雅朱音
佐藤優仁 堀口すずな 小山幹太 渡辺健介
小坂日菜子 半田滯 寺島しおり 楠野友香
清水弘心音 赤石悠花楠 小金井美鈴
横山理咲 木村樹 海老沢桃子 田村優希
大塚有紗 二見友子 佐伯春来 竹内陽一朗
山中陽斗 森涼太郎 草間春花 力瀬暁士
矢島直樹 川村慈 料治さくら 栗原理子
中野弘基 川村利良 安部季奈 矢崎悠真
野山雷登 川村幸平 深貝花 鈴木彩花
菊池優希 下天座晴斗 小池悠大 種真山香
西岡春夏 柳川賢太 西川宗吾 天田翔太
山本ひかり 強口慧一郎 中林彩香
大澤倫太郎 竹内悠美 林真穂 石岡佳大
鶴崎大輝 今井悠貴 稲垣佑夏 井出秀音
内ヶ崎陽菜子 堀川美結 阿部綾 長瀬菜摘
トラランバグ・リサ

前号に於いて三月十三日の方々が
未掲載となり、本号に掲載させて
頂きました。深くお詫び致します。

杜の話題

春の大祭

当宮春の大祭（つつじ祭り）が薫風かおる五月三日から五日の間行われ、期間中境内は多くの参拝者で賑わいました。

春の大祭初日の三日午後には子供の祭り・稚児行列が行われ、穏やかな天候の中四十二名のお稚児さんが参加して稚児行列。立正佼成会杉並教会鼓笛隊を先頭に猿田彦、稚児等、陣羽織姿の役員総代の方々の供奉、そして飛び入り参加自由の太鼓山車の子供たち六十名と総勢四百名の行列が法螺貝を合図に出発。一・三キロのコースを進みました。



翌四日は第二日ノ儀奉仕のち拳武者の集いの催しとして「若葉inおみや」を開催。薩摩琵琶やドラム、尺八など「東方異聞」のメンバーが新邦楽の世界へ聴衆を誘いました。

五日は午前十時より春の大祭当日祭を

宮司以下祭員奉仕により斎行。五穀の豊饒と皇室国家の安泰、氏子崇敬者各位の繁栄をお祈り致しました。

大宮匠ご奉仕の献茶式

春の大祭に先立つ四月二十八日、裏千家献茶式が斎行されました。五回目を迎えた今年はお家元の裏千家今日庵鶴雲斎千玄室大宮匠がご奉仕、宮司の祝詞奏上のあと

献茶の儀が行われ、濃茶、薄茶が大前に奉られた。また境内では裏千家淡交会東京第六西支部により奉賛添釜茶会が催されました。



民話語りの公演も

五月三日午後、稚児行列に続いて神楽殿ではNPOちんじゅの森による「民話語り 鎮守の森の物語り」奉納公演が行われました。民話や伝説には先人の生活の知恵や約束事、言葉や地名の由来など様々な感動が詰まっている——NPOちんじゅの森はそんな感動を未来を担う子供達に伝えようと全国で活動す

る団体。この日は劇団「team 励風」が「花咲爺さん」「桃太郎」など慣れ親しんだ昔話を二人語りとしンセドラムや和楽器を使った効果音の独特の舞台で表現、参拝者に笑いの渦が起りました。

「ぶらり途中下車の旅」放映

去る四月二十六日に、日本テレビ「ぶらり途中下車の旅」が大宮において収録されました。

当日は、俳優の米倉斉加年氏が、井の頭線永福町駅を途中下車して当宮に参拝し宮司との歓談の様子や、大宮幼稚園での切画家風祭竜二先生の切画教室が撮影収録され、五月二十二日に放映されました。

このほか、五月二十八日にはTBSテレビの「古社を歩く」、また七月五日には同じくTBSテレビにより当宮の乞巧奠の取材をうけました。



御鎮座九四〇年奉祝記念の「力石石庭」がお目見え

去る三月二十八日に、日本とドイツの桜の女王により、当宮御鎮座九四〇年奉祝記念樹として「八重紅枝垂」が植樹された赤門脇の神苑に、地元のお敬神家より十個の大きな庭石が奉納されましたので、神楽殿脇の力石十四個を移設して、見事な「力石石庭」が竣功致しました。

大宮八幡祭りに向けて

神輿改修

当宮大宮八幡祭り（秋の大祭）に向け、地元大宮一丁目町会（五本木徳治自治会長）では、御鎮座九四〇年のご神威の余光輝やく年明けより神輿（大人・子供）並びに山車の改修を神輿師に依頼しておりましたが、去る五月二十三日に見事に出来上がり、御社殿にて竣功奉告祭の後、町会役員等による初担ぎが披露されました。

この修理は、昭和五十二年に神輿を新調して以来初めてとの事で、この後、当宮清涼殿において、お祝いの直会が催されました。

また大正時代に作られた和田陸会の中神輿も、去る六月二十



大宮一丁目町会神輿の清被

七日に修理が終り、御社殿にて竣功奉告祭が斎行されました。両神輿とも合同宮入りに参加し、その神輿振りが賑々しく披露されることでしょう。

全国八幡宮連合 創立五十周年記念大会

全国八幡宮連合が創立五十年の節目を迎え、去る六月六日に京都に於いて記念大会が開催されました。当宮より宮司が参加し、前日石清水八幡宮を正式参拝のあと鎮護八幡神火祭や六日の神威景仰祭、記念総会及び式典に参列、また記念表彰を受けました。

この記念大会に於いて全国八幡宮連合創立五十周年を記念し全国八幡宮イメージソング「はちまんさま」が発表され、当宮の社頭でもBGMとして活用し

ています。

全国天満宮梅風会総会

また六月十日には、第二十八回全国天満宮梅風会総会が、北野天満宮に於いて開催され、宮司が出席致しました。

杉の樹カレッジ

去る六月二十三日、NPO法人杉の樹カレッジの伝統芸能講座が当宮に於いて開催されました。

このNPO法人杉の樹カレッジは、シニアの生涯学習と地域社会への参加活動をより活性化する為に設立されたもの。今回はその事業の一環としての講座で、当日午前十時、参拝の後、当宮清涼殿に於いて五十名の受講生が参加し、先ず宮司による大宮八幡宮の歴史と神社神道の信仰の講話。その後、当宮職員による雅楽と神楽舞が、雅楽の解説を交え一時間にわたり演奏されました。

七夕飾り「乞巧奠」再現

平安時代の七夕飾り・乞巧奠(きつこうでん)を、本年も七月一日より十五日の間、清涼殿ロビーに於いて再現公開致しました。

乞巧奠は牽牛・織姫の伝説から中国で行われた行事ですが、わが国では、お盆のみたま祭りの先触れの神を川のほとりで見えるという棚機(たなばた)つ女の風習と一体となり平安時代より宮中を中心に行われておりました。特に天皇が七日の朝、梶の葉に御歌を書かれたのが現在の七夕の短冊のもととなったとも伝えられております。



期間中の四日と十一日の夕刻には、奏楽技術の向上を祈り、当宮雅楽部による雅楽と神楽が奉奏され、多数の崇敬者が陪観されました。

大宮天神祭り

当宮恒例の「納涼 大宮天神まつり」が去る七月二十五日夕方行われ、真夏の夜の一刻、境内は多くの参拝者で賑わいました。

この日境内の大宮天満宮では、午後五時より天神祭を斎行、幼稚園児や小中学生、また一般公募の二百基の書画行燈に点灯されました。

天神祭に続き「時間をはずした日の祭事」として響道宴氏ら

により和太鼓、シンセサイザー、舞踏によるコラボレーションが奉納され、炎暑の中にも涼風が吹き、過去最多の凡そ一、〇〇〇名の陪観者が感性豊かな演奏と独創的な舞踏を楽しみました。このあと境内ではミニ花火大会も催され、ちびっ子達で賑わいました。

大賀蓮が見事に開花

本年三月二日に、御鎮座九〇年の奉祝記念として大賀蓮の会・神門長良氏により奉納された大賀蓮が七月五日早朝見事に一輪が開花し、二〇〇〇年前の美しい花の色を参拝の方々にも楽しんで頂きました。



末社改修遷座祭

当宮の北・南両末社は、昭和四十一年の御鎮座九〇〇年の記念境内整備事業に際し、現在地に遷座いたしました。以来四〇年の年月で社殿の老朽化が進んだ為、改修する運びとなり、八月十五日に仮遷座祭を斎行して御動座の後、工事にかかり竣功後の八月三十一日に本遷座祭を斎行致します。

また北末社前の石灯籠（貞享二年）と若宮八幡社前の石狛犬（明和八年）等の配置を換え大前を広くして祭典がよりスムーズに斎行出来るよう改修致します。

大宮遺跡の案内板設置

当宮の北側に隣接する善福寺川南崖に位置する弥生時代方形周溝墓は、当時の有力者（族長＝祖神）の墓域、祭祀遺跡といわれており、この遺跡が当宮の旧社殿地とも重なっていることから、この一帯が聖域とされていた古代からの信仰がのち大宮八幡宮の創建につながったと思われる。

遺跡は、発掘後埋め戻されましたが出土品の一部は当宮清涼殿に展示されています。しかし現在発掘地には案内看板が無い為、参拝者にご不便をおかけし

ておりましたので、今般、当宮で新設する運びとなりました。

ボーイスカウト活動報告

ボーイスカウト杉並第十三団は、当宮が育成母体となり、大神様のご加護のもと、境内の「スカウトの森」を中心に活動しております。

本年も三月に上進式が執り行われ、四月には各隊新入隊員の歓迎キャンプがスカウトの森で実施されました。五月の春の大祭には、バザーや稚児行列などの神社行事に参加しました。また五月末には、スカウト親子体験会をガールスカウト東京第六十二団と合同で実施し、多くの親子が実際にスカウトの活動にふれ有意義な一日を過ごしました。

活動の中心である夏キャンプは、ビーバー・カブ・ボーイの各隊が山梨県の道志渓谷で、またベンチャー隊は、伊豆大島での長期のキャンプを実施しました。また、本年は東京都神社スカウト協議会設立四十周年にあたり八月二十九日の記念式典と記念ラリーに参加します。

今後の活動としては、秋の大祭の諸行事への参加や、正月の篝火奉仕などが予定されており

明日を築く少年たちへ、十三

団はいつでも君達の入団を歓迎します。

大宮八幡宮振武会のご案内

振武会は当宮弓道場「振武殿」において、日本古来の弓道の普及振興を図る弓道場として、技術の向上のみに偏ることなく、大宮八幡宮の神域に存在するという特性を生かし、敬神の心を持ち、心身の鍛練と誠実な人間育成に寄与する精神修養の道場として運営されております。

また振武殿は小笠原流の大宮支教場でもあり、共に協力し合い乍ら活動しており、当宮新春の弓始め式や春・秋の大祭等にも奉仕しています。

毎年十六才以上の男女を対象に弓道初心者教室も開催しておりますので、ご希望の方は、直接振武会にお問い合わせ下さい。

菊被綿飾り

平安時代より宮中に伝わる重陽の節句（菊の節句）の行事、菊被綿（きくのきせわた）飾りが大宮八幡祭り（秋の大祭）



に合わせ、九月九日より二十日までの間、清涼殿にて公開されます。期間中はロビーに赤・白・黄の真綿で覆われた百数十鉢の菊が飾られます。

この行事は、本来九月九日の重陽の節句の朝に、前日に菊花に真綿をのせ、朝露で菊の香りの移った真綿を顔にあて不老長寿を願うものです。

十五夜の神遊び

仲秋の名月にあたる九月二十八日（火）午後六時より、御社殿前に置かれた孟宗竹の中に水を張り、丸い浮き蠟燭を浮かべた竹灯籠約七百基に、法螺貝の合図と共に、官司以下参列者によって火入れの後、仲秋祭「十五夜の神遊び」を斎行いたします。

秋の夜、神楽殿での雅楽と神楽舞の演奏は、満月の月明りにすだく鳴虫の音が耳にしみ入る自然の豊かな神域で、名月を愛



菊花展

で、竹筒にゆらぐ火あかり、古式ゆかしい音色。参拝者は雅で幽玄の世界にひたり、神々と一体である事を体感する一時です。そのあと午後七時より、「月の音コンサート」として、き乃はち氏による尺八演奏と柴草玲さんのソナタの奉納公演も十五夜に溶け込み心の癒しとなることでしょう。

多くの陪観の皆様のご参詣をお待ち致しております。

本年も十月二十二日より十一月二十三日までの一ヶ月間、第二十六回を迎える「杉並大宮菊花展」(杉並大宮菊の会主催、杉並区後援)が、境内で開催されます。

杉並「花笠祭り」

この夏の猛暑が菊の発育に影響されるのが心配ですが、秋には菊の会会員が一年間丹精込めて育てあげた約二百鉢の色彩とりどりの盆養菊、盆栽菊などが展示されます。

優秀作品には、宮司賞、区長賞などが、また一年間講習会に参加して研鑽を重ねた初心者の方には、新人賞などが贈られます。

第十四回目を迎える「杉並花笠祭り」が来る十二月十一日(土)に開催されます。この行事は(株)サミットと当宮の主催、山形県他の後援により毎年十二月第二土曜日に開催されており、御社殿において「杉並花笠祭り奉納奉告祭」斎行の後、山形の郷土料理の芋煮や地酒が無料で振舞われ、特に東京山形県人会花笠踊り愛好会と地元商店会婦人部有志による花笠踊りのパレードなどが執り行なわれ、境内は約三万人の参拝者で終日賑わいます。

大宮八幡宮の杜新能

昨年、初めて当宮御鎮座九四〇年を奉祝して、十月二十五日

に「大宮八幡宮の杜新能」が杉並で能を楽しむ会主催で開かれましたが、その第二回目の奉納公演を来る平成十七年五月十四日(土)に実施することが決定されました。

演者は、毎年元旦の午前零時に、「独り翁」を奉納されている能楽師野村四郎氏等観世流の方々です。演目は、「船弁慶」他が予定されています。

おめでとう 七五三詣

お子さまのすこやかな成長と幸せな未来をお祈りする七五三詣。晴れの目を迎え、お子さま自身もひとつ大人になったという誇らしさ、可愛らしさで胸をいっぱいにすることでしょう。だからこそ、大切な記念日を家族皆さまの大きな愛で素晴らしい一日にしてあげてください。

大宮八幡宮で全てをお決めいただける展示ご予約会のご案内です。七五三お祝い当日も同じ会場で実施いたします。スタッフが参拝されるみなさまの大切な記念日をお手伝いさせていただきます。ご来場をお待ち致しております。



七五三レンタルプランご予約会

ご予約会日：8月21日(土)より毎日開催
開催時間：朝10時30分～夕方4時まで

大宮八幡宮

清涼殿

TEL 03(3312)7515

結婚式参式者芳名(敬称略)

(平成十六年四月一日)

十六年七月三十一日

若林康彦・佳世、守屋貴正・知恵子、仁木輝彰・薫、大塚啓司・久仁子、折間賢一・桂子、久我隆弘・直子、伊藤真吾・かおり、萩原洋昭・尚代、小谷庸夫・はぎの、穴澤友樹・明子、坂田昌人・玲子

秋の大祭のご案内

大宮八幡祭り（秋の大祭） 祭典と奉納神賑行事	
祭 事 例大祭 献幣使参向 神輿神霊入れ 若宮八幡神社・白幡宮例祭 宵宮祭 奉祝当日祭 神輿合同宮入り 神輿神霊返し 後朝祭（直会の儀） 神賑行事	15日 午前10時 17日 午前10時 17日 午前11時 18日 午後6時 19日 午前10時 19日 午後6時 20日 午前10時 20日 午前11時 20日 午前10時 20日 午前11時
9月9日～20日 菊被綿飾り 9月9日～23日 献燈 9月9日～23日 書画行燈	清涼殿ロビー 清涼殿前 神門内

9月12日 弓道奉納射会 9月15日 奉茶（裏千家） 9月18日 大宮幼稚園民謡踊り 9月19日 野点（裏千家） スカウト神輿 舞楽 小笠原流三々九手挟式 高井戸囃子 盆裁展示会 小原流献華 社殿・神門・神輿庫	終日 振武殿 午前10時 社殿 直会場 午後3時半 神門内 午後7時 神楽殿 午前10時半 参道 午前11時 菩提樹下 午前11時半 境内・参道 神楽殿 神楽殿 神楽殿 神楽殿 神楽殿 神輿庫
---	--

年長組では七月十七日から十八日にかけて、お泊まり保育を行いました。
 期待あり不安ありで当日を迎えた子どもたちは、家族と離れて友だちや先生と泊まるということにやや興奮気味で登園し、隣で寝る友だちと共に



秋の大祭後の祭典行事

9月28日	十五夜の神遊び（仲秋祭）	午後6時
10月22日～11月23日	杉並大宮菊花展	終日
11月15日	七五三祝祭	午前9時
11月23日	新嘗祭	午前10時
12月11日	杉並花笠祭り	終日
12月23日	天長祭	午前10時
12月31日	大祓（年越祓）	午後4時
	除夜祭	引続き
朔旦祭	毎月1日	
月次祭	毎月15日	
古民具骨董市	第4土日	

お朔日参りを致しましょう



に喜んでシーツを敷き、家から持参した枕やタオルケットを布団に置いていました。
 みんなの意見をとりいれながら作ったスイカマン、キャンブファイヤーに夜の探検、ドライブなど普段の保育では出来ないことをたくさん経験し、今まで不安だった子どもも楽しく過ごしていました。
 そして先生方の楽しい劇を見てからの就寝。寝つくのに時間ばかりでしたが、どの子どももとてもいい顔をして眠っており、私たちも一安心でした。子どもたちと共に楽しく幸せなひとときを過ごすことが出来、ご協力下さった方々に感謝の気持ちで一杯です。
 年長組のみなさん、みんな楽しく過ごしたお泊まり保育、いつまでも忘れないで下さいね！

教諭 真藤 愛

大宮八幡祭り(秋の大祭)

(9月15日~20日)

実りの秋を迎え大宮八幡祭り(秋の大祭)が9月15日より20日迄の間、盛大に行われます。15日には例大祭を斎行、又19日(日)に奉祝当日祭が斎行され、同日の夕には氏子各町の神輿7基が合同宮入り、境内が熱気に包まれるほか、期間中奉納の書画行燈の掲出や「菊被綿(きくのきせわた)」の展示等もあり、神域は終日賑わいます。



斎館(清涼殿)より参進



園児による朝日子の舞



例祭の直会



宵宮祭

氏子町会神幸所

- 大宮地区
 - (宮元会神幸所).....
 - 大宮一丁目町会神幸所.....
- 方南地区
 - 峰睦会神幸所.....
 - 峯栄会神幸所.....
 - 新栄若睦会神幸所.....
 - 泉南睦神幸所.....
 - 方南西神幸所.....
 - 方南東神幸所(上).....
 - 方南東神幸所(下).....
- 和田地区
 - 和田睦会神幸所.....
 - 和田敬神会神幸所.....
 - 和田仲組神幸所.....
 - 和田南神酒所.....
 - 和田東神酒所.....
- 松ノ木地区
 - 松ノ木睦会神幸所.....



表参道口の賑わい



浦安の舞



大祭のクライマックス合同宮入り



大 宮 第70号
 大宮八幡祭り特集号
 平成16年9月1日発行
 大宮八幡宮社務所
 東京都杉並区大宮2-3-1
 電話(3311)0105〒168-8570



大祭を奉祝する氏子崇敬者の献燈が



奉祝の小原流献華が